

「戦争を知らない大人たち」

学校法人みその幼稚園長 細谷 實

古代のハンムラビ法典に「目には目を、歯には歯を」という言葉があります。また聖書には「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」という言葉があります。これらの言葉をどう解釈するかは大変難しいですが、本来は人間の「報復」(リベンジ)したいという欲求に対し「過剰な報復はしてはいけない」、報復は最低限のものに止めるようにという意図と、また暴力に対して暴力を返さないという意図があるようです。しかしながら、世界情勢に目を向けると、首脳、政治家は「報復」という大義名分を揚げ戦争を始め、エスカレートさせているのが現実です。皆様は昨今の世界情勢をどのように感じられるでしょうか。

今年で日本の終戦から80年を迎えました。私は昭和28年生まれで戦争を知らない世代です。日本はじめ各国の首脳、政治家においてもあの大战を五感で体験していない者が多くなっているように思います。私は少年時代に父親からよく大战の話しを聞きました。父が戦場で負傷して米兵の捕虜となり自決することを考えたという話や、母親からは東京大空襲時の大惨事や食べ物が無く苦労した話などの体験談を聞きながら、子どもの私も涙した記憶があります。そして話しの最後には両親は口を揃えて「日本は二度と戦争をしては駄目だ」と言っていたことを今でも覚えてい

ます。私のような昭和世代は両親はじめ祖父母より戦争の怖さや悲惨さを聞き、戦争を体験してはいないけれど「戦争はしてはいけない」という思いがあります。ですから世界に戦争体験の首脳や政治家が多かった時代は今より平和で政治的バランスが保たれ前述した言葉が各国の中で機能していたように思います。しかしながら昨今、世界では戦争や紛争が拡大して「核のタブー」が崩れようとしています。そして各国間での平和のバランスが崩れようとしている世界情勢の中で今般、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、国際社会はじめ世界の人々に対して大変意義深い訴えになったと思います。核体験者であり被団協代表委員である田中さん(92歳)のスピーチ最後の力強い言葉「核も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」に感動して涙がでました。

私をはじめ戦争を知らない世代が多くを占める今の時代、私たち大人は戦後80年間の永きに渡り戦争の無い平和な日々と生活を享受できたように、今の子どもたちが将来に向けて同じ社会が迎えられるよう、私たち大人が子どもたちに核や戦争の悲惨さを伝えながら、共に平和を願い、頑張っていかなければならないのではないのでしょうか。